

カリフラワーロマネスコタイプ

*Euro Star*

ユーロスター

## 特性と栽培のポイント



朝日アグリア株式会社

# ユーロスター品種特性

- 花蕾の形状がユニーク
- 花蕾重1,100g程度  
(直径14cm目安で)
- 通常のカリフラワーより甘みが強い
- 草姿はやや開張性で生育旺盛
- 近年、クリスマス需要が非常に高い

※ブロッコリーとカリフラワー両方に似ているが、カリフラワーの仲間

※TVで何度もとりあげられた注目野菜！

1

## カリフラワーの生理生態

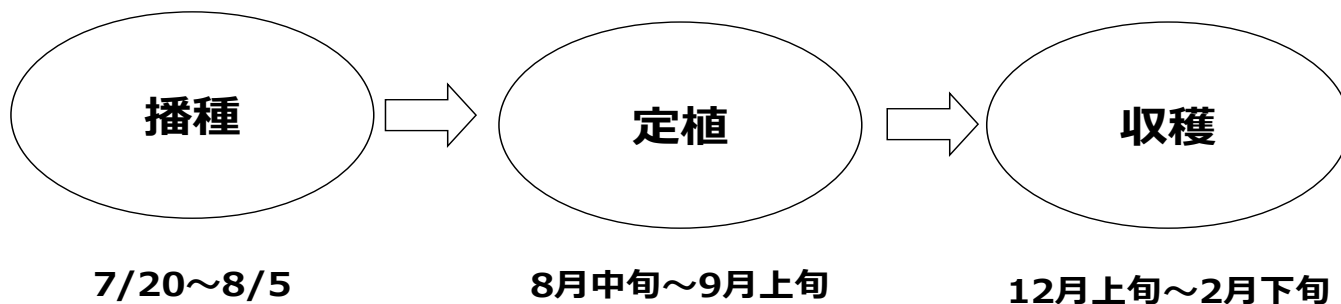
- 発芽適温：20～28℃（最低5～8℃、上限30℃）
- 生育適温：20℃前後
- 土壌酸度適応性：弱酸性（pH6.0～6.5）  
※ただし、根こぶ病は酸性側で発生が助長されるので注意
- 花芽分化をおこす条件：グリーンプラントバーナリ型  
※品種の早晩性により異なる（表-1参照）

表-1

早晩性	気温	展開葉数	茎の太さ	低温遭遇期間
極早生種	22～23℃	5～6枚	5mm	2週間以上
早生種	17～20℃	6～7枚	5～6mm	
中生種	13～17℃	11～12枚	7～8mm	
晩生種	15℃以下	15枚	10mm以上	

2

# 栽培スケジュール（一般地）



## 注意！

- ・早まきすると収穫期の高温により花蕾が乱れる
- ・遅まきは花蕾が小さいまま低温期を迎え収穫期が遅れる

適期播種！

3

## 高温時の発芽率低下に注意！

ロマネスコはカリフラワーに分類されます。そのため、関東地方の高い気温環境では発芽適温の30℃を超え、上限の35℃以上になるケースがあります。ロマネスコは30℃を超えると極端に発芽率が低下しますので、高温期の播種は下記対策をとって下さい。

### 【対策】

1. 播種する天候は極力曇天の日に実施して下さい。
2. 時間帯は夕方以降に播種して下さい。
3. 播種後は寒冷紗を利用するなど温度管理に注意して下さい。（寒冷紗遮光率確認）
4. 温度管理の具体例は以下を参考にして下さい。
  - ① 培土を予冷庫で冷やす。
  - ② 井戸水を灌水に利用する。等
5. 播種後、2日間トレイは室内で管理して下さい。（トレイを重ねて管理する際は互い違いで積み上げて風通しを良くする）

### 当社高温発芽試験結果

通常		高温	
ろ紙	土播き	ろ紙	土播き
98%	95%	6%	0%

通常試験温度設定  
ろ紙：20-30℃変温  
土播き：25℃定温

高温試験温度設定  
ろ紙：35℃定温  
土播き：35℃定温

4

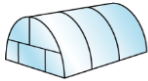
# 播種・育苗管理



**128穴セルトレイ**（1トレイに培土約4L）



セルトレイは地面に直接置かず、**20cm以上の高床で管理**し、根がトレイの外に出るのを防止し、根鉢の形成を促す



遮光（夏期）や時に加温（冬期）が必要となるため、**ハウスやトンネルの雨よけ設備内での育苗**がお奨め

## 定植適齢期の苗



2.5葉期苗



3葉期苗

播種後**20～25日**で本葉**2.5～3葉**、徒長していない

抜いても培土が崩れない

※根が黒ずんでいれば、根腐れや老化で、活着が悪くなる

5

## 定植準備（施肥・土壌改良）

### ・施肥例

成分量（kg/10a）

N：12～18 P：15.6～23.4 K：12～18

- ・ 収穫期まで肥料を効かせ花蕾肥大を促進させるため通常のカリフラワーより多肥とする。
- ・ 追肥の時期は9月下旬～10月中旬頃行う。

### ・ホウ素欠乏に注意

ホウ素欠乏が出やすい

→ 微量要素資材や**ホウ素配合肥料**がお奨め

### ・土壌改良は定植1ヶ月以上前に

堆肥や土壌改良資材は定植の1ヶ月以上前に施用し、よく土と馴染ませる

6

# 夏季の高温・湿害対策事例

## マルチ栽培



定植直後の状況



生育の揃った圃場



株の状況

## 導入している産地

茨城県→高温対策として白黒マルチを使用。収穫期が前進。

長野県→レタスで使用している全面マルチを併用。

福島県→生育揃い、歩留まりが向上。

7

# マルチ栽培のメリット・デメリット

## 【メリット】

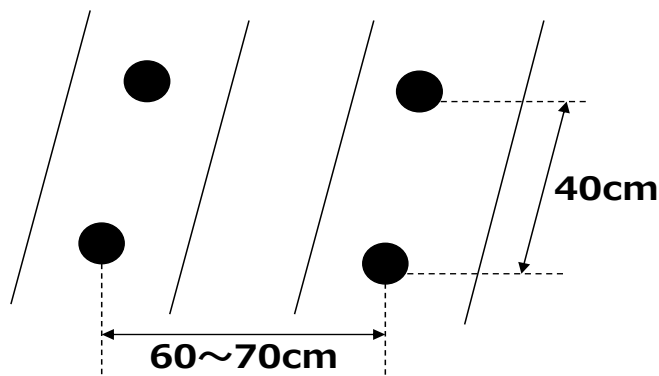
- ① 地温の上昇あるいは上昇制限による生育の促進、増収
- ② 土壤水分の保持
- ③ 肥料溶脱の軽減
- ④ 雑草発生の抑制
- ⑤ 土壤伝染性病害の軽減
- ⑥ アブラムシの忌避効果→遮光性（地温上昇抑制）と、光線反射率の高い性質を兼ね備えた、シルバーマルチあるいは白黒ダブルマルチの使用効果は高い

## 【デメリット】

- ① 資材費が余分にかかる
- ② 土寄せができない
- ③ 機械定植が困難
- ④ 白黒マルチは生育後半の地温が下がるため、収穫期が若干遅れる

8

# 定植～活着



- セルトレイ育苗定植時の苗の大きさは**本葉3枚前後の若苗**（定植遅れは活着不良の原因となる）
- Lサイズに揃えるため**株間は広め**にとる。株間が狭すぎると株が傾き花蕾形状が崩れることがある
- 定植前に十分に灌水しておき遅延なく活着させる
- 定植する時間帯は、曇天の夕方がベスト
- **活着するまでは極端に乾燥させないよう灌水を行う**

上記で栽植密度は  
3,600~4,200株/10aとなります

9

## 栽培管理のポイント

- 追肥するタイミングで除草を兼ねた中耕をする  
→しっかり株元まで土寄せする事が重要（倒伏防止）
- 大雨の後は、土がしまり根が呼吸ができなくなるため、耕し土壤に空気を含ませる
- 早め早めの予防散布
- 厳寒期には花蕾の傷みを防ぐため葉を被せるなどして霜を避ける





10

# カリフラワーの病害

病害虫名	病害虫の特徴 防除上のポイント等	耕種的防除法	薬剤防除時期
軟腐病	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食害は病原菌の侵入口となるので、食葉性害虫は早めに防除</li> <li>●予防散布の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健全な圃場、用土を使用</li> <li>●輪作</li> <li>●傷口から侵入するため、傷を生じない管理作業</li> </ul>	発病前～発病初期
黒腐病	<ul style="list-style-type: none"> <li>●強風雨は発病助長（防除のポイント）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アブラナ科作物の連作を避ける</li> </ul>	
黒斑細菌病	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食害は病原菌の侵入口となるので、食葉性害虫は早めに防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●排水を良くし、被害株は早めに処分</li> <li>●毎年多発する圃場には作付けしない</li> </ul>	
べと病	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多湿条件で発生多くなる。また、肥料切れや草勢が弱った時に多発しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●密植を避け、通風を良くする</li> <li>●肥料切れしないようにする</li> </ul>	

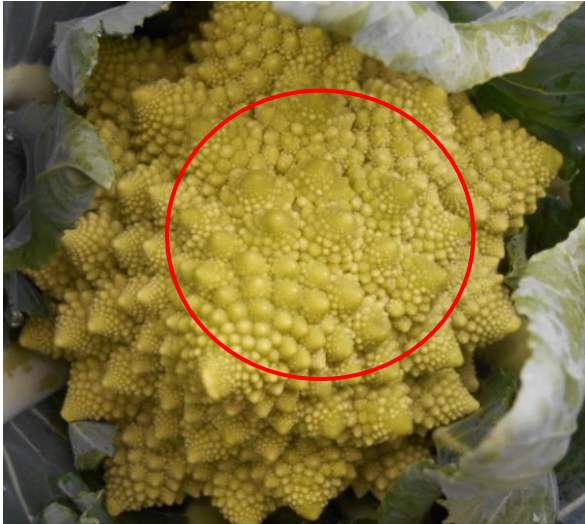
11

# カリフラワーの生理障害

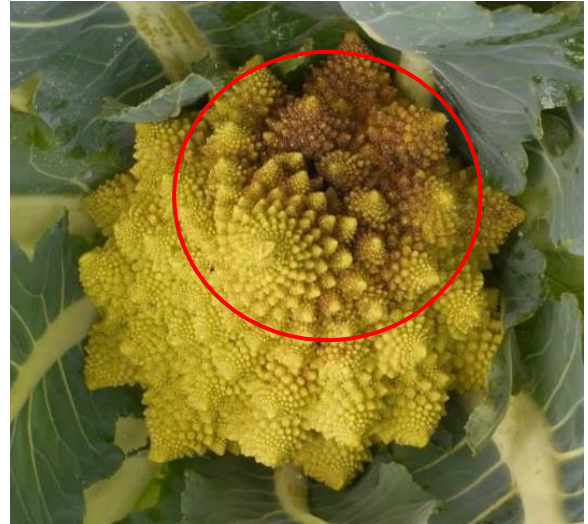
生理障害名	症状	発生要因	対策
ボトニング 	小花蕾や早期出蕾とも言われ、株が十分に育たないうちに出蕾する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼苗期を過ぎて、まだ花蕾の発育に必要な葉数が分化しないうちに低温に遭遇すると早期に花芽分化を起こすが、この株が低温や肥料不足、湿害などによって栄養生長を阻害されると発生する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 育苗期の低温を避ける。最低10℃、最高25℃位が望ましい。本圃でも低温を避けるため、無理な作付け体系は避ける。肥料切れを避け、出蕾まで十分大きな株を作る</li> </ul>
リーフィー 	さし葉や葉挿しともいわれる。花蕾の中に小葉片が発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花芽分化時に低温感応が不十分だったり、花芽分化後に高温に遭遇し、生殖生長のあとに栄養生長が助長されて、花蕾の中で小葉片が発育して起こるといわれている。また、チツツ過多によっても助長される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花蕾肥大期の肥効を抑制する。発生には品種間差があり、発生の少ない品種を選ぶ</li> </ul>
ヒュージー 	毛羽立ちともいわれる。極小さな苞葉が表面に出るため、花蕾の表面が毛羽立つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活着不良・チツツ過多・高温条件などによる花芽の発育異常と言われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夏まき栽培で早まきしすぎない。花蕾肥大期の肥効を抑制する</li> </ul>
ライシー 	●花蕾肥大期に、個々のつぼみが発達して花蕾の表面に飛び出す。表面はざらざらしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花芽の発育の低温による異常と言われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乾燥に注意。適期収穫を行う</li> </ul>

12

# 降霜・積雪による花蕾損傷に注意！



積雪後、雪に触れていた部分がアメ色に



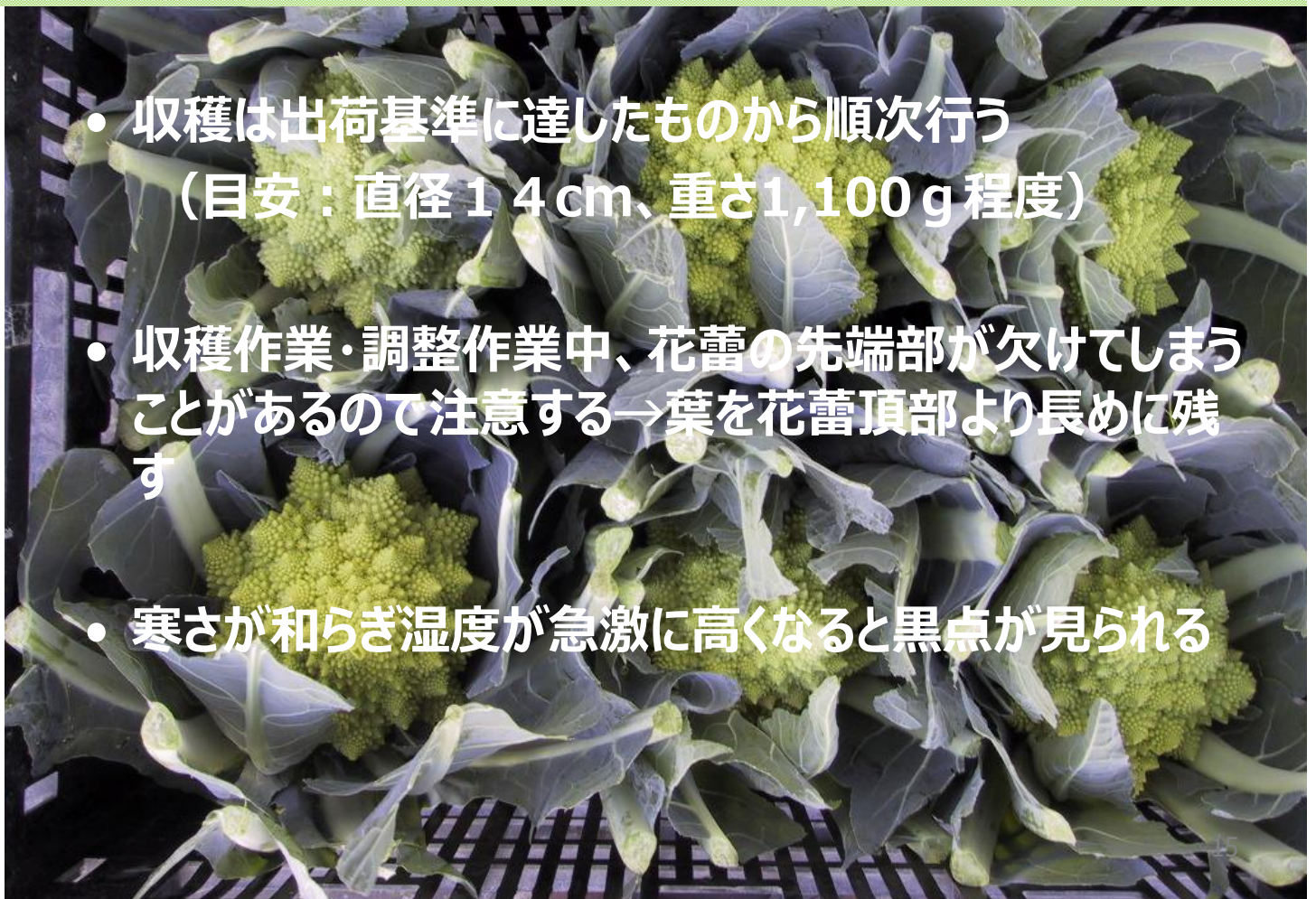
症状が進むと紫色に変色し腐敗

## 【対策】

- ロマネスコの外葉を折り花蕾に被せるなど寒さ対策と同時に、直射日光による変色も防ぐ。
- 花蕾全体を包み込むように外葉をまとめ縛ると更に効果的。

13

## 収穫・出荷



- 収穫は出荷基準に達したもののから順次行う  
(目安：直径14cm、重さ1,100g程度)
- 収穫作業・調整作業中、花蕾の先端部が欠けてしまうことがあるので注意する→葉を花蕾頂部より長めに残す
- 寒さが和らぎ湿度が急激に高くなると黒点が見られる

14